年間第 32 主日

皆さん、今日の福音（マタイ 25 章 1 節～13 節）で、イエス様は十人のおとめのたとえ話を語られます。

五人は賢く、五人は愚かでした。十人とも、ともし火を持って花婿を待っていました。そして興味深いことに、賢いおとめたちも愚かなおとめたちも、みんな眠ってしまいました。

では、賢いおとめたちと愚かなおとめたちは、何が違ったのでしょうか。それは、準備ができていたかどうかです。賢いおとめたちは予備の油を用意していましたが、愚かなおとめたちは用意していませんでした。花婿が到着したとき、賢いおとめたちは迎えることができましたが、愚かなおとめたちは迎えることができませんでした。

ここで大切なのは、イエス様は、眠ってしまったことを責めておられるのではないということです。人間は誰でも疲れます。眠ることもあります。いつも緊張して待ち続けることはできません。しかし、賢いおとめたちは、眠る前にきちんと準備をしていました。つまり大切なのは、眠らないことではなく、いつでも主を迎えられるように準備しておくことなのです。

皆さん、私たちは日常生活の中で常識を働かせています。例えば、長い旅に出る前には車に十分な燃料があるか確認します。また外出する前には、携帯電話の充電が十分にあるか確認します。私たちは、準備することの大切さをよく知っています。

では、信仰生活においても、同じように気を配っているでしょうか。私たちは健康や仕事、家族、日々の生活を大切にしています。しかし、神様との関係を大切にすることを、つい忘れてしまうことがあります。

今日の福音に出てくるともし火は私たちの信仰を、そして油は愛を表していると考えることができます。油がなければ、ともし火は燃え続けることができません。同じように、愛がなければ私たちの信仰も輝くことができません。

私たちは毎週日曜日、ミサにあずかるために教会に来ます。しかし、ここで自分自身に問いかけてみたいと思います。私は何のためにミサに来ているのでしょうか。ただ日曜日の義務を果たすためでしょうか。それとも、私を愛してくださるイエス様に出会うためでしょうか。時には、体は教会にいても心は別のところにあるかもしれません。

聖書の朗読を聞き、祈りを唱え、ご聖体をいただいて家に帰ります。しかし、イエス様との出会いによって、私たちの心は少しでも変わったでしょうか。以前よりも人に優しくなったでしょうか。人を赦し、思いやりを持って接することができるようになったでしょうか。もしご聖体をいただいても、人を赦そうとしないなら、私たちの心には何かが足りないのかもしれません。また、教会で熱心に祈っていても困っている人を見て見ぬふりをするなら、自分の信仰をもう一度見つめ直す必要があります。

最後にイエス様はこう言われます。
「だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」
ここで「目を覚ましていなさい」というのは、文字どおり眠らないという意味ではありません。いつ主が来られても迎えられるように、心の準備をして生きなさいという意味です。
私たちも毎日の生活の中で疲れることもあれば、失敗することもあります。祈ることを忘れたり、愛を実践できなかったりすることもあります。しかしそのような弱さがあっても、神様とのつながりを大切にし、信仰と愛の油を絶やさないようにすることが大切です。
優しい言葉をかけること、困っている人を助けること、誰かを赦すこと、そして祈ること。こうした小さな愛の行いの一つひとつが、私たちの信仰のともし火を燃やし続ける油となるのです。

皆さん、今日自分自身に問いかけてみましょう。私の信仰のともし火には、十分な油があるでしょうか。言い換えれば、私の心には、十分な愛があるでしょうか。
私たちが愛の油を絶やすことなく、いつでも主を迎える準備ができるように、神様に恵みを願いましょう。アーメン。